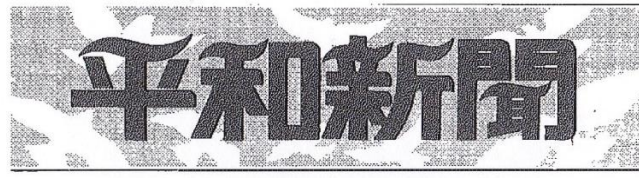


2024年新年特別号(2340号)
12月25日・1月5日合併号

(毎月5、15、25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物認可

1部140円月額470円(郵便料金月額126円)



京都版

E-mail: kyo-hei@crest.ocn.ne.jp 編集 京都平和委員会 Tel 075-811-3203 Fax 075-811-3213

発行 日本平和委員会

〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
電話 03(3451)6377 FAX03(3451)6277
振替 00100-4-83731
E-Mail (編集部) heishin@j-peace.org
http://j-peace.org

世界で戦禍が続くなか、非核・平和の日本の実現に向け、 今年こそ京都から戦争を止める力を構築しましょう！



2023年10月24日の国連創立記念日、核兵器禁止条約の日本政府参加を市民にアピール(京都原水協通信 No43 より)

憲法9条をもつ戦争被爆国としての平和創造をすすめよう 京都平和委員会理事長 片岡 明

ある学習会で司会の方から「台湾有事で火の海になるどころか政権が火だるまになっている」と。現状をうまくまとめていると思います。軍拡・増税・改憲の路線をすすめる一方で、統一協会や様々な疑惑につつまれ、果ては首相が「パーティーめがね」とまであだ名をつけられた自民党政治は終焉を迎えるのか、いや終わらさねばなりません。

残念なことに世界では、ウクライナでもパレスチナでも殺し合いが続いています。「支援疲れ」とか「えん戦気分」もみられますが、国際社会が一致して停戦・休戦を求める機運があることを確信することが大切です。「核兵器禁止条約第2回締約国会議宣言」では「われわれは、現在および将来の世代のために、核兵器のない世界を実現するために、不断の努力を惜しまない。われわれは、いかなる状況下においても、核兵器が再び使用されたり、実験されること、あるいは使用の威嚇を受けることがないようにすることを約束し、核兵器が完全に廃絶されるまで、たゆまぬ努力をすることを誓約する。」と力強く歩む決意が示されています。

日本国憲法は「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有する」と認めており、「国を守る」「攻められたらどうする」を超えた普遍性をもっています。戦争被爆国でこうした憲法を持つ国が、軍事同盟に加担するのではなく、核兵器禁止条約に加入し、包摂的な集団安全保障の体制へ転換していくことが必要です。そして戦争責任と戦後補償、武器輸出と海外派兵の禁止などの原則を堅持することで、国際社会での信頼を取り戻していくことが求められています。

身近なところでは経ヶ岬の米軍基地を中心に北部の基地が強化され、南部の基地でも「強靱化」「継戦能力」「重要土地等調査法」など軍事的強化が図られています。オスプレイや自衛隊機の飛行もみられ、安全安心を脅かされています。「戦争協力をおこなわない」自治体づくりも戦争をとめる力となります。

**京都平和委員会が
戦争国家づくりを告発する学習会を開催！
イスラエル問題でも宣伝行動で
日本政府に停戦をアピール(12/2)！**



学習会の状況(12/2、ラポール京都)

京都平和委員会は12月2日、点在の会員さんにもよびかけて、「京都の『いま』を考えよう」『敵基地攻撃の大軍拡』のなかで」をテーマに、片岡理事長を講師に学習会を開催しました。

今回の学習会は、大軍拡・戦争国家づくり問題では、地域平和委員会は活発に学習活動をしていいますが、京都平和委員会主催の学習会は十分にできていない状況がありました。また、地域組織に属さず、新聞の直送だけでつながっている会員、読者の方も多

く、平和新聞京都版以外の働きかけも十分ではないため、それが退会の原因になったこともありました。これではいけないと、常任理事会「LINE」に提案が寄せられ、今回の学習会となりました。日程的には他の団体の取り組みなどもあつて厳しかったのですが、初めての方も含めて、会場オンラインあわせて22人が参加しました。



学習会後の宣伝行動で停戦を訴える参加者

**日本政府に対話による
平和的解決を求める
街頭宣伝行動を実施！**

学習会終了後、阪急西院駅前で、イスラエル問題で「今すぐ停戦を」との宣伝行動に取り組みました。これに先立ち、京都平和常任理事会は、日本政府に対して「イスラエル・ハマス双方の武力行使に反対し、即時停戦と対話による平和的解決に向けて働きかけを強めることを日本政府に求めます。」との要請文を確認しています。

**2023年日本平和大会
に参加して
清水郁子
立命館平和の会**

11月11日(土)・12日(日)に鹿児島で開催された日本平和大会に参加しました。ここでは学びと交流のつどい「日中と琉球の歴史から台湾問題を考える集い」と分科会「歴史認識問題、次世代にどう戦争を伝えていくのか」を中心に報告させていただきました。(中略)

飯田光徳氏(日朝協会)のお話からは、「過去500年間の北東アジアの国々の間で起きた戦争14のうち、日本が仕掛けた、からんでいるものが12あり、日本さえおとなしくしていれば北東アジアは平和、ゆえにアジアの民衆は憲法9条に熱いまなご



閉会集会での清水さん(中央)

【京都平和委員会新入会員のご紹介】

山根あさこさん(伊根町)

伊根町の山根あさこです。事務局長の川上さんとは以前職場が一緒だったこともあり、平和新聞を勧められて、断る理由もないので読ませてもらうことになりました。毎日、目の前の課題に追いかけている中、送られてくる平和新聞に「ああ、そうそう、このことも考えて取り組まんといかんなあ」と活動のヒントをもらったり、さらにプレッシャーをかけられたり、まあ、どちらにしても平和新聞から刺激をもらっています。ありがとうございます。先日、高齢者のくらしを考える北部交流集会有り、第二部の動く分科会で、久しぶりに経ヶ岬のXバンドレーダー基地を視察しました。由緒ある穴文殊を挟んで徐々に拡張している米軍と自衛隊の基地。規模としてはそれほど大きくはないと思いますが、目立たず、静かに戦争する準備を整えている不気味さを感じました。地元の会の皆さんの地道な活動に頭が下がります。学んで、声を上げていくことでしか平和は守れないと思いました。



しを注いでいる」という点です。
お話を聞いて、頭の中を整理してみると次のようなことに行きつきました。
①軍事同盟を解消させ、国連を中心に世界の世論を示す様々な取り組みを進めることが非常に大切。
②国民レベルの平和友好運動を大いに進めること
が平和構築にとって大切。
③日本国憲法9条を堅持することはアジア、世界の平和にとって大きな意味がある。
この3点は、平和委員会の活動の中でこそ進める課題であると思います。これからもできることを少しずつでも取り組んでいきたいと感じました。